

## さくらのひと、みっけ！

## 絵本がひらく まちの未来 絵本専門士の「読書の森」づくり



きぐち けいこ  
木口 啓子 さん

木口啓子さんは、教諭・司書として働いてきた自身の経験を生かし、読書体験を通して文化に触れられるまちを目指す取り組みを進めています。中学校で英語教諭として働いた後、子育てをきっかけに絵本の魅力に出会い、こどもたちに良い読書環境を届けたいという思いから、学校図書館を通じてこどもたちに関わってきました。

令和6年に立ち上げた「さくrai読書の森」では、司書のいない学校図書館の環境整備・授業支援・図書委員会活動のサポートなどを行っています。こどもたちの自主的な読書活動が少しずつ広がっていく様子が、大きな励みになっているといいます。

絵本専門士の資格を持つ木口さんは、読み聞かせ会・絵本の選書などの子育て支援や、新聞の絵本紹介コラム執筆にも取り組んできました。「絵本は絵が語り、そこから感じるものを自由に受け取ることができるもの。こどもと読むときは、物語の世界を共有しながら、感じ合う時間を大切にしてほしい」と話します。日常を少し離れ、心が動く絵本との出会いを届けたいと、大人向けの絵本講座・講演会・原画展も開催しています。

「これからも、誰でも、どこでも、いつでも楽しい読書体験ができるまちに育てていきたい」と、活動への思いを語る木口さん。これからも、絵本の魅力を届けていきます。

## 共に生きる

## ～あいさつでつながる～

春の風が心地良くなるこの季節。4月は進学や就職、引っ越しなどで新しい生活が始まる人が多くなります。そんなとき、ふと交わす「おはよう」のひとことが、私たちの毎日を少し優しくし、心の支えになることがあります。あいさつは言葉以上に、相手を認め合う小さな合図にもなります。

忙しい朝、足早に通り過ぎてしまう日があっても、目を合わせて軽く会釈するだけで、相手の気持ちや和らぐことがあります。特に、新入生や新入社員、最近この地域に来たばかりの人にとっては、そのひとことが孤独感を和らげ、安心につながりやすくなります。

無理に愛想良くする必要はありません。大切な

のは「あなたを気にかけています」という気持ちを伝えること。あいさつは、差別や偏見による心の距離を縮めるきっかけにもなります。

あいさつを返してもらえなくても、気にしすぎる必要はありません。相手にも余裕のないことがあるかもしれないし、聞こえていないこともあるでしょう。続けるうちに、少しずつ表情が和らいだり、言葉が返ってきたりします。

新しい出会いが増えるこの季節に、ちょっとした声かけを習慣にしてみませんか。小さな心遣いが積み重なれば、誰もが過ごしやすい居場所が少しずつ広がっていきます。